

# 小学生ボッチャ競技会～2023東京大会～

## 試合規則 <ブロック予選>

最終更新：2023/8/3

本競技会は、[ボッチャ東京カップ 競技規則](#)に則る。ただし、ボッチャの習熟度を考慮し、簡易化した特別ルールを併用する。

ゲーム進行や得点の数え方などの基本的なルールは、[日本ボッチャ協会のWebサイト](#)「ボッチャの試合の流れ」を参照。

## 1. チーム編成

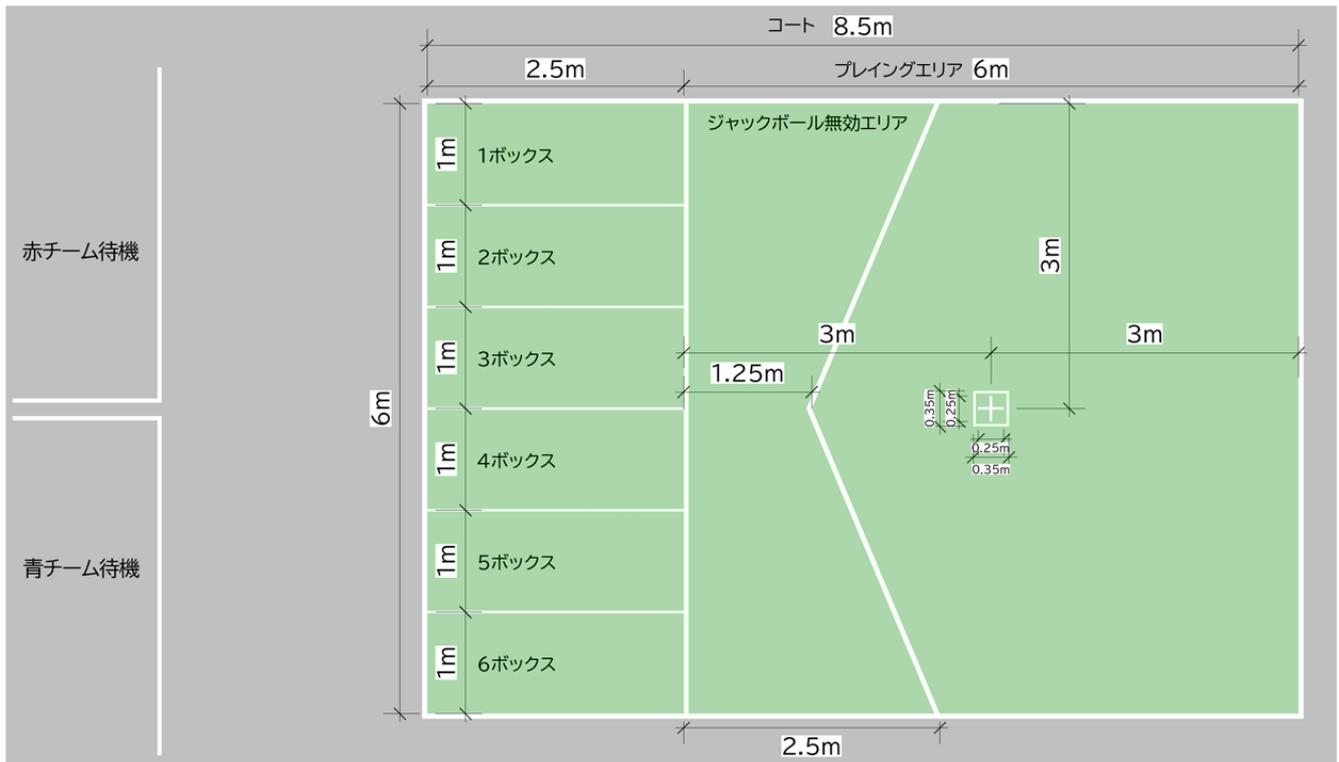
1. 選手は、小学校（小学部）3年生から6年生までの児童4名以上、最大6名まで。通常学級に在籍する児童と、特別支援学級または特別支援学校に在籍する児童を2名以上含むことを条件とする。（[募集要項 参加チーム概要を参照](#)）
2. 1エンドに出場する選手は3名。すべての選手が各試合の中で最低1エンドはプレーする。
3. 受付時に「通常学級の選手と特別支援学校または特別支援学級の選手によるチーム編成」、「特別支援学校または特別支援学級の選手2名以上」という条件を満たさない場合は、試合には参加できるが当該チームの戦績は除外する。
4. 受付後に、体調の変化などにより、「通常学級の選手と特別支援学校または特別支援学級の選手によるチーム編成」という条件を満たさなくなった場合は、試合には参加できるが当該チームの戦績は除外する。
5. 受付後に、体調の変化などにより、「特別支援学校または特別支援学級の選手2名以上」という条件を満たさない(特別支援学校または特別支援学級の選手が1名になった)場合は、1名の特別支援学校または特別支援学級の選手が2エンドともプレーする。

6. 選手の中で1名、キャプテンを事前に決める。キャプテンの役割は2つ。ジャックボールの投球、全投球後の得点確認。
7. 選手の中で1名、副キャプテンを事前に決める。キャプテンが控え選手になる場合、副キャプテンがキャプテンの役割を代行する。キャプテンと副キャプテンが同時に控え選手にならないようにする。
8. 選手の中で1名、ファイナルショット（同点時、代表者1名による1球勝負。詳しくは後述）の投球者を事前に決める。キャプテン、副キャプテンと兼任でも良い。

## 2. グループリーグと本戦出場権

1. Aブロックは、参加8チームを4チームずつ2つのグループに分け、各グループにて総当たり戦を行う。
2. Bブロックは参加5チームによる総当たり戦を行う。
3. Cブロックは参加4チームによる総当たり戦を行う。
4. グループリーグの順位は、勝ち数、得失点差、総得点の順で決定する。総得点も同じ場合は、ファイナルショットで順位を決定する。
5. Aブロックは、グループの1位ともう一方のグループ2位が対戦し、それぞれの勝者が渋谷区スポーツセンターで行われる本戦への出場権を得る。
6. Bブロック、Cブロックは、グループ1位、2位が本戦への出場権を得る。

# 3. コート



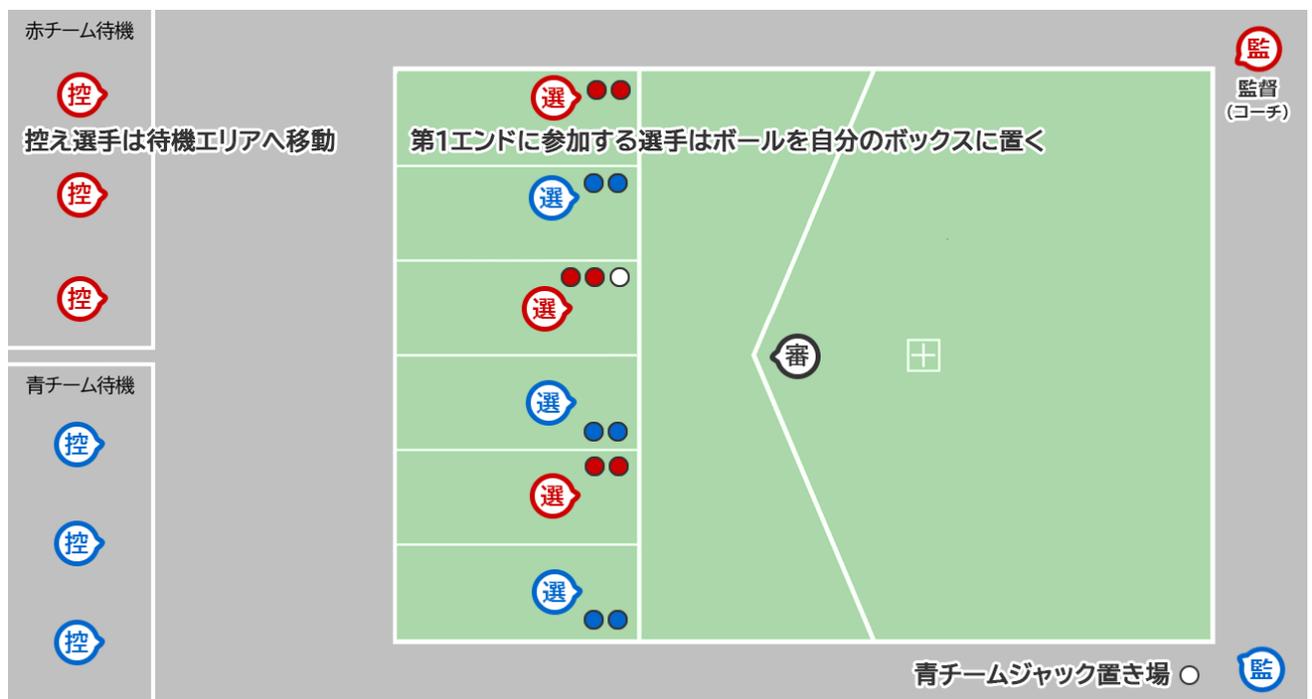
ライン幅: 外枠、スローイングライン、Vライン →5cm

スローイングボックスを区切る線、クロス、ターゲットボックス→2.5cm

コートは幅6m、奥行8.5mとする。奥行は公式（12.5m）より短い。待機エリアの場所は会場により異なる。

# 4. ゲームの進め方

1. キャプテンが先行（赤）・後攻（青）をジャンケンで決める。
2. 第1エンドに参加する選手は、自分のスローイングボックスへ移動。控え選手は待機エリアに移動。監督（またはコーチ）はコートの奥に用意された椅子に移動。待機エリアは、試合会場によって場所が異なる。



コートにはボッチャボールの他、必要であれば、飲み物（水筒、ペットボトル）やタオルを持ち込める。自分の持ち物は、自分のスローイングボックスの内側に置く。試合に使わないもの（ボールケースなど）は監督（またはコーチ）が預かる。青チームのジャックボールは、コート右奥（図中右下）に置く。

### 3. 審判員の指示に従って試合を進行。

ジャックボールはキャプテン（または副キャプテン）が投げる。

ボールを全て投げ終えた後の得点確認は、キャプテン（または副キャプテン）が行う。

### 4. 第1エンド終了後、第2エンドまでに1分間のインターバルを取る。この間、監督（またはコーチ）は選手とコミュニケーションを取れる。

### 5. 第2エンド終了時、得点差があれば試合終了となる。同点だった場合はファイナルショットで勝敗を決める。

## 5. 特別ルール

本競技会用に特別ルールが適応される。

# 持ち時間

各チーム持ち時間は、1エンド5分。ただし、ブロック予選では時間計測を行わない。そのため、あきらかに試合の遅延が発生している場合（1分を超える相談が複数回あるなど）は、審判が注意をする。

# ファイナルショット

1. 代表者（事前に決めたファイナルショット投球者）が、先攻後攻をジャンケンで決める。
2. ジャックボールを主審がクロスの上に設置する。
3. 各チームの代表者が1球ずつ投げる。自分がプレイしていたスローイングボックスから投球する。
4. ジャックボールに近いチームを勝利とする。

# 反則の緩和

選手の障害の状況や、ボッチャの習熟度を考慮し、[ボッチャ東京カップ 競技規則](#)を厳格には適応しない。反則行為については、下記のように緩和する。

反則行為	対応
投球時にラインを踏んだり、スローイングボックスを出たりした場合	審判がボールを止め、そのボールを除去する（相手チームに1回の投球を与える「ペナルティボール」は無し）
審判の指示が出ていない時に、ボールを投球した場合	審判がボールを止め、そのボールを除去する（「ペナルティボール」は無し）
その他の反則行為	審判が指導、または注意をする。審判の裁量で軽微な反則は試合を止めずに進行する。